

參考資料



大学と社会の多様なステークホルダーとの間のエンゲージメントを体現するような質保証システムへの転換

1. 大学・高等教育機関の教育マネジメント・戦略形成能力を高めることで、(多様なステークホルダーのエンゲージメントを促進するような)内部質保証の文化・キャパシティの発達を支援→学修と学位の質と国際通用性を大学の自律的な努力と戦略により高める
2. 産業や地域・国際社会と協働して、マイクロ(オルタナティブ)・クレデンシャル(従来の学位などよりもはるかに小さな学習モジュール、日本では履修証明プログラムなど)の開発・普及・活用を支援
3. 日米を除く世界150カ国以上で制度化されている国家学位・資格枠組み(National Qualification Framework: NQF)を、マイクロ・クレデンシャルや教養教育などを含めた柔軟で包摂的な形で構築、産業・地域社会・国際社会が必要とする学位・資格との接続性を高める。
4. 様々な学修・訓練、キャリアの情報を、学修者・ワーカーが自らの学修・キャリア開発のために活用できるようなEポートフォリオのデジタル・プラットフォームを準備、国際的に接続・活用を促進(グローニンゲン宣言に準拠した学修歴証明の国際的接続を意識したデジタル化)



すべてを大学・高等教育側で抱え込むのではなく、産業界・職能団体などの主体的な取組と連携して、個別最適な学修・キャリアを国際的に質保証することで「多様な人材の集まる多様な大学」を実現する質保証システムへと展開させる

マイクロ・クレデンシャルとは？

- 「ナノ学位」「マイクロマスター・クレデンシャル」「サーティフィケート」「バッジ」「ライセンス」「エンドースメント」等、様々な形態のクレデンシャルを包含
- デジタル通信技術がある学習者がどのような知識を持ち、何ができるのかについての情報を共有することができるような、関係者のネットワークをデジタル・コミュニケーション技術によって確立することによって可能になったデジタル・クレデンシャル・エコシステムの一部となる

オルタナティブ・クレデンシャルとは？

- 国の関係教育当局によって独立した正式な教育資格として認められていない資格。OECDは高等教育段階に注目
- 注目される理由としては、「労働力のスキルアップ・再生への需要の高まり→ターゲットを絞った提供」「デジタル化による提供単価の大幅な低下→オンライン配信」
- 種類としては、「サーティフィケート（学術的／専門職・産業的）」「デジタルバッジ」
- 主なコンテンツ・プロバイダーはMOOCsやテクノロジー企業。比較的高学歴の男性で中核的な労働年齢層(25～54歳)の利用が多い

学修歴証明書の主要な国際プラットフォーム比較

	Blockcerts	Digitary	Erasmus without paper	EMREX
実装地域	米、独、伊、墨 等	豪、NZ、加、米、英、印、中 等	伊、西、白、葡 等	北欧、蘭、波、中 等
ユーザー	学生・卒業生		大学職員	学生・卒業生
閲覧ソフト	スマホ・アプリ等	ブラウザ		
証明書送付先	応募先／採用先企業、教育機関		接続教育機関	
証明書の体裁	グラフィック・イメージ	紙・PDF(大学ごと)	データ	データのブラウザ表示